

写真右から、海南友子さん、後藤彰さん、
榊渕万理さん。後藤さんが着ているのは
憲法9条をあしらった「9Tシャツ」

特集

世界社会フォーラム2004

アジアの 新しい社会運動が 動きはじめた！

WSF2004 参加 NGO 座談会

海南友子

(Chance! pon²)

後藤 彰

(ナマケモノ倶楽部)

榊渕万理

(ピースボート)

2004年1月、インド・ムンバイ(旧ボンベイ)で、アジアではじめて世界社会フォーラム(WSF)が開催された。世界中から12万人が集まったこの大フォーラムには、日本からも前回は数倍するNGOや労働組合の人びとがかけつけた。「Another World is Possible」を合言葉に、「もうひとつの世界」を目指すWSF、その魅力を聞いた。
(司会・編集部)

ムンバイで開催された今年1月の世界社会フォーラム(以下WSFと略記)に参加して、いかがでしたか？

海南 今回、初めての参加でした。1992年の「地球サミット」にプロセスから参加したことがあり、あんな感じかなと思っていたのですが、この10年ですごく発展していましたね。世界中から約7万人集まったこともすごいんですが、そこで話し合われている内容の充実ぶりにもおどろきました。環境問題や核戦争、軍事化の問題から水の自由化、児童買春や児童労働のことまでとても幅広い。いまの日本を見ているとネガティブな気持ちになることもありますが、「なんだ、全然まだまだこんなに頑張れるじゃん」という気持ちをもらって帰ってきた感じです。

後藤 僕は大学院で社会学を勉強していましたが、そのなかでWSFを知っ



て「すごいことをやっているな」と注目していました。グローバルズのもと世界は破壊的な影響を受けていますが、この流れをいっぺんに変えることはできなくとも、それに対抗する動きを作っていくと、世界中からNGOが集まって話し合っているわけです。今回は130カ国から参加者が7万人と言われていますが、これ、記事によって違うんですけどね。一番多いのは12万人(笑)。「経済的グローバルイゼーションはおかしい」とか「アメリカの一国主義やミリタリズムはおかしい」という声が共通語となっていて、そのエネルギーはすごいものがありました。ただ、経済社会フォーラム(ダボス会議)のカウンターとして位置づけられているのですが、具体的な方向性を打ち出せずに、話し合いだけで終わってしまう危険性も指摘されています。意見を言い合ったり、あるいはネットワークが生まれたりすることも大切ですが、ダボス会議に対抗するのであれば、具体的な行動計画づくりを意識する必要があるのではないかと思います。

榊渕 昨年、ブラジルのポルト・アレグレで開催された第三回世界社会フォーラムにも参加したのですが、今回はアジアでできた感じがします。WSFの会場で驚いたのは、アクティビストミーティングでした。今、アメリカに経済的にも社会的にも文化的にも集中しているなかで、それぞれの国がアメリカとの関係をどうしようかということとを悩んでいる。それをどう解決するか、各国のNGOや市民運動が話し合っていたんです。たとえば、世界的に広がったイラク反戦デモを企画した人たちが、「去年はここが良かった」「ここはダメだった、どうしようか」と、500人くらい集まって1日中、本気で議論している。

「プッシュ政権を終わらせよう」だとか「経済的にプッシュを支えている企業をボイコットしよう」と、本気で発言している。すごい力だと思っし、これからのこうした話し合いに参加していきたいと強く思いますね。よくインターネットの影響で反戦デモが起きたんだと言われていますが、実はオフラインでのこうした議論が成功の基礎になっている。

榊渕 米軍基地を抱えている国々の代表が集まって、どうやって基地を撤去させるかということや、撤去後の被害などについて、具体的な報告を含めて話し合われていましたね。

海南 そう、沖縄でもPCBが出ているのに米軍は認めない。フィリピンにあったことは韓国にも日本にもあって、米軍基地があったところには結局、同じ問題が起きています。解決しなければならぬ問題は同じだから、横につながって、国境をこえて解決できる方法が見つかるん

の開催ということもあり、東アジアの課題が高い比重で取り上げられていましたね。ポルト・アレグレでは、南アジアや東南アジアは取り上げられたのですが、東アジアは全然なかったのです。ちょうど反戦ムードのなかでパレスチナやイラク問題が大きなテーマとして掲げられていて、イラク攻撃を止めるための世界的ネットワークをどうやって築くかという議論が行なわれていました。しかし、その一方で「悪の枢軸」の一つとされた北朝鮮についてはほとんど議論が行なわれない。WSFの参加者たちにも東アジアの構造が理解されていないし、その存在自体も重視されていないと感じましたね。この地域で冷戦構造がそのまま続いているのは、国際社会にも責任があるのよ。

だから今回は絶対に東アジアの声をWSFに持っていきたくて強く思っていたんです。プッシュ政権がイラクの次に北朝鮮を狙うというシナリオや、国内の右傾化の状況をふまえて、どうすれば東アジアの危機感を世界の人たちに伝えられるか、国際的な運動を盛り上げていけるか、これが今回のWSFにとりくむピースボートのテーマでもありました。その意味で、今回はポルト・アレグレに比べて東アジアの問題をしっかりと語る事ができたと思うし、日本からの参加人数もすごく増えました。ピースボートだけで300人はいましたから、恐らくピーク時には日本人参加者は600人くらいになったでしょう。韓国からも多くの人が来ていました。

日本のマスメディアはWSFをほとんど報道しませんでした。日本のNGOにはWSFは認知されているのでし